

[専門教育関連科目/環境の理解]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
疫学	NSF31_001	選択	2	3・4	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
藤井 充	306	mitsuru.fujii	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	疫学は、人間集団の健康水準及び疾病予防に関与する要因を明らかにし、地域域の健康水準の向上に役立てる解決策を探し出すことを目的とする。動画視聴、オンラインでの質疑、確認テスト、フィードバックにより、この疫学の基本概念を理解し、健康事象の把握、分析方法について学ぶ。				
学習上の助言	日頃から保健医療に関するニュースに関心を持ち、住民に対しての影響を考察すること				
教科書	看護疫学入門 第3版 大木秀一 医歯薬出版 2020				
参考書	必要に応じて講義の中で紹介する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	疫学の概念と用語について理解する。		NS(1)(3)		
②	疫学の基本的な指標を理解し、計算することができる。		NS(1)(3)(4)		
③	疫学的手法の種類や特徴を理解する。		NS(1)(2)(3)		
④	疫学の実践を理解し、説明できる。		NS(2)(3)(4)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	疫学の概念、疫学の歴史 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、疫学の歴史から疫学とは何かを理解すること。	4	
2	疫学研究(1)(疫学研究の分類) 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、疫学研究にはどんな種類があるか理解しておくこと。	4	
3	疫学研究(2)(標本抽出) 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、全数調査と標本調査のメリット、デメリットを整理しておくこと。	4	
4	疫学研究(3)(疫学研究の方法) 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、どのような場合にそれぞれの疫学研究を応用するのかまとめておくこと。	4	
5	疫学で用いる指標(1)(頻度の測定) 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、計算ができるようにしておくこと。	4	
6	疫学で用いる指標(2)(頻度の比較) 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、計算ができるようにしておくこと。	4	
7	観察研究(1)(記述疫学、生態学的研究、横断研究) 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、記述疫学の3要素を使いこなせるようにしておくこと。	4	
8	観察研究(2)(症例対照研究、コホート研究) 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、演習ができるようにしておくこと。	4	
9	介入研究 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、介入研究の例を挙げられるようにしておくこと。	4	
10	システムティックレビューと因果関係 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、研究方法の違いによる科学的根拠の強さの違いを整理しておくこと。	4	
11	交絡因子とバイアス 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、疫学研究によるバイアスを整理しておくこと。	4	
12	スクリーニング 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、行政型のスクリーニングの科学的根拠を理解しておくこと。	4	
13	疫学と倫理 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、疫学においてなぜ生命倫理が大切なのかを理解しておくこと。	4	
14	疫学と公衆衛生看護 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	講義範囲の教科書を読み、保健所の業務と疫学との関係を整理しておくこと。	4	
15	疫学演習 意見交換：授業時間内に実施 フィードバック：授業時間内に実施	同時双方向型授業	計算を伴う疫学演習を実施するので、今までの演習を復習しておくこと。	4	
試	定期試験				

[専門教育関連科目/環境の理解]

総合評価割合(%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	0	50
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	30	30
		10	0	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	マルチプルチョイス及び筆記試験で評価を実施する。計算を伴う問題は必ず出題する。				模範解答例を配布する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
その他	①	✓	講義に出席し、演習に参加することを評価する。				
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
備 考							
<ul style="list-style-type: none"> ・同時双方向型授業は、Teamsを利用して実施する。通信量が過大にならない工夫をするが、通信容量が確保できる Wifi 環境を確保することが望ましい。 ・今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢の変化により再度シラバスの変更がありうるので注意すること。 							
教員の実務経験：公衆衛生医師として、厚生労働省、保健所等に 40 年間勤務 実践的授業の内容：単なる教科書の世界ではなく、看護職として現場で経験する可能性があることを取り上げ理解を深める。							